

名古屋第二赤十字病院 消化器内科

【住所】名古屋市昭和区妙見町2番地9 【病院長】石川清先生 【病床数】812床

【内視鏡検査・治療総数（平成22年6月～23年5月）】9,809件

内訳：上部内視鏡検査6,030件、下部内視鏡検査3,299件、ERCP480件

【スタッフ】消化器内科医16名、内視鏡室専属スタッフ7名（うち内視鏡技師3名）

【スコープ本数】上部用20本、下部用10本、十二指腸用5本、気管支鏡9本、超音波内視鏡4本



緊密な地域連携と万全の救急体制で 地域医療の充実に大きく貢献

「全ての救急搬送応需」を目指した 救急医療体制で 年間約5万人の救急患者受け入れを実現

名古屋第二赤十字病院は名古屋市東部に位置し、高度先進医療の推進と救急医療の充実を図る地域の総合病院です。平成17年9月には、長年にわたる地域連携の実績が評価され、愛知県初の地域医療支援病院として承認されました。現在でも診療科・疾患ごとに合同の勉強会や症例検討会を定期的に開催し、連携する地域の医療機関が一堂に会す機会を増やすことで「顔と顔の見える連携」を推進しています。また、連携先の病院に継続的に医師を派遣するとともに紹介患者様に対して専門的な医療を提供し、病床・医療機器等の共同利用を進めるなど、同院は地域医療の充実を図るための中心的な役割を担っています。

また同院は、歴代院長が打ち立てた「医の原点は救急医療である」という方針のもと、全ての救急搬送応需を目指したほぼ完璧と言える救急医療体制を整えた救命救急センターを備え、地域住民の「命の砦」として機能しています。救急車が5台同時に到着しても対応可能なゆとりの設計や、重篤な患者に対応する集中治療ユニットや13の手術室が配置されるなどのハード面の充実に加え、特殊外来や各科専門医を含めた18名の医師とそれを支えるコメディカルスタッフが夜間・時間外も待機するなど、同院がもつ全ての医療資源を24時間提供して年間約5万人の救急患者に対応しています。この全国屈指の救命救急センターには、開設10周年を迎える現在でも、全国各地から見学に訪れる医療関係者が絶えないそうです。

患者QOLを高める早期癌治療に取り組み 東海地方初の大腸ESD実施医療機関に認定

第一消化器内科部長の折戸悦郎先生をはじめとする消化器内科では、消化管出血や重症胆道感染症などに対する緊急内視鏡に24時間対応するため、当直医1名、待機医1名を固定し、必要に応じてスタッフを集結できる体制を整えているそうです。内視鏡室は消化器内科、外科とバックヤードで一導線に繋がっており、日常診療においても緊急で内視鏡検査や治療が行えるよう、あらゆる事態に医師・スタッフが迅速に対応できるレイアウトになっています。



外来から検査室へ一直線でアクセスできるレイアウト

▶次ページへつづく



消化器内科では外科と週に2回合同でモーニングカンファレンスを行い、また消化器内科全体のカンファレンスも別で週に1回行うなど、チーム医療推進のためスタッフのコミュニケーションを緊密にしています。

また、近年増加している消化管の早期癌に対する低侵襲治療を提供するため、消化器内科では2005年頃から胃のESD治療に取り組み、さらに先進医療に分類される大腸ESDにも2007年に治療を開始しています。それまでの長年の実績が評価され、2010年6月には東海地方で初めて「大腸ESD実施医療機関」に指定されました。さらに、超音波内視鏡を用いた最新のEUS-FNA（超音波内視鏡下穿刺吸引法）も行うなど、最新技術の導入を積極的に進めることにより、患者様にとって多くの治療の選択肢を提供し、安全性や利便性の向上に努めているそうです。

励されており、やる気があるスタッフが専門性を高められる環境が整っていることも、同院の大きな特徴です。特に内視鏡室で企画した「内視鏡取扱講習会」では、外来を含む新人看護師全員に参加してもらい、内視鏡の取り扱いに精通できるようにしているそうです。



内視鏡検査室

先進医療を支えるチーム医療実践のため 手厚い指導体制で人材育成に臨む

消化器内科では、同院の特徴である救急医療と先進医療を安全に行うため、人材育成には特に力を入れています。研修医に対してはモデルを使った内視鏡技術のトレーニングを実施し、シニアレジデントに対してはオーベン（指導医）2名が側について内視鏡検査や治療を行っています。コメディカルスタッフ向けには、院内で独自に作成した内視鏡技術マニュアルに看護業務マニュアルを融合した教育マニュアルがあり、このマニュアルを基準に現在のレベルを測定してそれに応じた検査に配置するようにしているそうです。検査時には看護係長がマンツーマンで指導にあたり、確実にスキルを向上することができるような教育体制が取られています。また、院内外の研究会や機器の取扱に関する勉強会などへの参加も奨

専任スタッフによるスコープの洗浄と履歴管理で 安全・安心の内視鏡検査や治療を提供

同院は2008年に病院機能評価認定Ver5.0を取得し、翌年2009年には付加機能（救急医療機能）認定を取得されています。「患者が病院を選ぶ時代」と言われる昨今、病院選定における一つの客観的な基準となるのではないかと考えるから、5年後ごとに取り組み病院機能評価の受審を一つの通過点として積極的な取り組みを行っています。このような環境の中、内視鏡業務においてもガイドラインを遵守したスコープの洗浄・消毒はもちろん洗浄の履歴管理を行うなど、業務の標準化と質的向上に努めています。



消化器内科のみなさん
（前列中央・第一消化器内科部長 折戸 悦朗 先生／
前列向かって左側・第二消化器内科部長 林 克巳 先生）